

# 文献リスト

本文献リストは当センターを利用した研究で、1999年4月から2000年3月までの間に学術誌に発表された論文と、各大学において受理された卒業論文、修士論文、博士論文のリストである。

## 一般研究論文

- 池田 宏・伊勢谷ふじこ・小玉芳敬 (1999): ダム上流の河床勾配変化—侵食性平衡勾配から堆積性平衡勾配へ—. *応用生態工学*, **2-2**, 113-123.
- 池田 宏 (1999): 洪水機能は再生できるのか. *科学*, **69-12**, 983-987.
- 池田 宏 (2000): 山から海までの土砂礫の移動と粒径変化. *海洋*, **32-3**, 151-155.
- 木村富士男・新村典子・佐々木太一 (1999): 山岳や谷における GPS 可降水量と対流降水の日変化. *月刊地球*, 号外 **25**, 41-45.
- 木村富士男 (1999): 夏の北関東における局所的降水と水蒸気輸送の日変化, *気象研究ノート*, **193**, 137-145.
- 近藤昭彦・樋口篤志 (2000): 草地における分光反射輝度と蒸発散量の関係. 第2回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 79-84.
- 新村典子・桜 久美子・木村富士男 (2000): 長期データを用いた草地の熱収支の変動について. 第2回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 111-115.
- 西田顕郎・樋口篤志・飯田真一・近藤昭彦 (2000): VI-Ts 法と BRDF による、地表面状態推定手法の検討 (PGLIERC の成果から). 第2回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 103-109.
- 樋口篤志・近藤昭彦 (2000): 草地・水田・雑木林での地表面フラックスと衛星より得られる可視・近赤外波長域の分光反射特性および植生指標との関係. II. 衛星より得られる可視・近赤外波長域の分光反射特性と地表面フラックスとの関係. *水文・水資源学会誌*, **13**, 137-147.
- 樋口篤志・近藤昭彦・池田正一・黒子裕史 (2000): 草地・水田・雑木林での地表面フラックスと衛星より得られる可視・近赤外波長域の分光反射特性および植生指標との関係. I. 各土地被覆での地表面フラックスの季節変化. *水文・水資源学会誌*, **13**, 124-136.
- 樋口篤志・西田顕郎・飯田真一・新村典子・近藤昭彦 (2000): PGLIERC (Preliminary GLobal Imager experiment at Environmental Research Center); その概要. 第2回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 85-91.
- 樋口篤志・西田顕郎・飯田真一・近藤昭彦 (2000): 様々な手法による草地のフェノロジーモニタリング: PGLIERC の成果から. 第2回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ, 93-102.
- Higuchi, A., A. Kondoh, and S. Kishi (2000): Relationship among the surface albedo, spectral reflectance of canopy, and evaporative fraction at grassland and paddy field. *Adv Space Res.*, **26**, 1043-1046.
- Kimura, F., Y. Kurosaki, T. Yoshikane, S.-H., Lee and S. Emori (1999): Regional simulation around Tibetan Plateau initialized by NCEP and ECMWF analysis data, *Proceedings of the 1st International Workshop on GAME-Tibet, Xian, China*, 11-13, January 1999.
- Mori, M. and F. Kimura (1999): A numerical study

of topographic effect on thermal belt.  
*Proceedings of the 15th international congress of bioclimatology and international conference on urban climatology.* 190-191.

Takagi T., F. Kimura and S. Kono (2000) : Diurnal Variation of GPS Precipitable Water at Lhasa in Premonsoon and Monsoon Periods. *J. Meteor. Soc. Japan*, 78, 175-180.

Tsuda, T., K. Heki, S. Miyazaki, K. Aonashi, K. Hirahara, H. Nakamura, M. Tobita, F. Kimata, T. Tabei, T. Matsushima, F. Kimura, M. Satomura, T. Kato and I. Naito (1998) : *GPS meteorology project Japan-Exploring formations of geodesy, Earth Planets Space*, 50, 1-5.

#### 卒業論文

有賀雄高：磐梯山の崖錐斜面における礫のファブリック（筑波大学第一学群自然学類）

岡本圭世：利根川下流の河道形状について（筑波大学第一学群自然学類）

柏木登士子：鹿島灘沿岸における砂丘の南北変化について（筑波大学第一学群自然学類）

勝野和美：分光反射率に基づいた草本植物の光学特性に関する研究（筑波大学第二学群生物学類）

高崎淳子：那珂川の砂礫質蛇行州にみられる洪水堆積物（茨城大学教育学部学校教育教員養成課程）

田中久則：筑波台地・桜川低地における冬季静穏時の最低気温特性の解明（筑波大学第一学群自然学類）

林 千夏：四万十川の穿入蛇行河道形状について（筑波大学第一学群自然学類）

山口宏子：阿蘇カルデラ外斜面の台地の開析過程（筑波大学第一学群自然学類）

#### 修士論文

北山一博：人間活動に伴う都市の温熱環境の改変（筑波大学環境科学研究科）

渡辺義之：新潟平野における水倉の分布と存在意義の変容（筑波大学教育研究科）

Shin-ichi IIDA : Seasonal Changes of Stem Water Storage and its Role in Transpiration Processes of a Japanese Red Pine. (Master thesis, Doctoral Program in Geoscience, University of Tsukuba)